

創意と
工夫で
生残れ

（歴史復元画巨匠の描いた戦国時代）

中西之太原画展

2023年

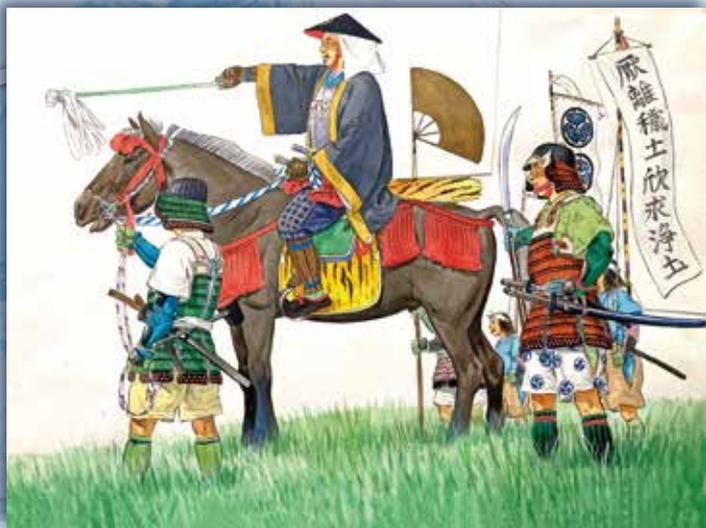
11月11日(土)~26日(日)

寒川町民センター

綿密な時代考証に基づき歴史上の出来事や人々の生活をリアルに描いた「中西立太」(1934~2009)の歴史復元画は、その正確さから、歴史書・教材集・博物館など、書籍や展示物の説明に多く使われてきました。今期はNHK大河ドラマでも話題の「戦国時代後期」に焦点を絞り、目覚ましい発展を遂げた戦術や戦法、城下町の構造、庶民生活などを「鳥の視点(鳥瞰)」や臨場感あふれる立ち位置でご覧いただけます。また、有名武将などの「個人の物語」にスポットを当てた作品も展示します。立太の「歴史復元画」の多岐にわたる表現と魅力を、存分に感じていただける貴重な機会です。

歴史復元画 中西

展示作品から



「関ヶ原の家康」

数の上からも布陣の形態からも劣勢だった東軍(徳川軍)を勝利に導いた大逆転は濃霧と小早川の寝返りだった。西軍本拠(石田三成陣地)より3km下った桃配山に陣を構えた家康は霧が霽れていくタイミングを見計らって、要所(松尾山)に陣取った小早川秀秋に突撃を命じた。この絵はその直後、「厭離穢土欣求浄土」を希求した家康の指揮ぶりを描いたものであり、警護の武士達の視線からは戦いが好転していく様が伝わってくる。

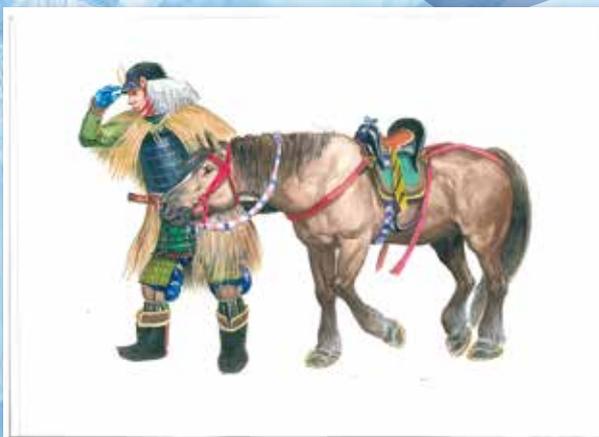
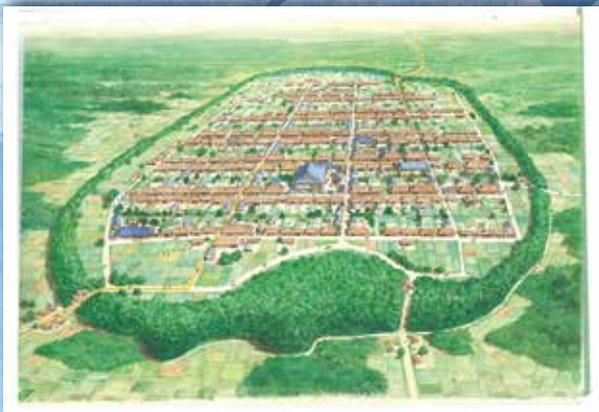
表面使用作品(右上、右下)

「富田林寺内町」

戦国時代末期に、浄土真宗興正寺を中核として高台に築かれた自治都市。町は城壁のような土居と堀割りで囲われ、信徒や町民を守り税も安かった。

「雪国の武士」

一般的に雪深い季節の戦は避けられていたが、状況に応じて国境の警備や斥候は行われていた。画中の武士は雪が甲冑に着くのを防ぐため藁蓑をまとっている。防寒のため手甲と手袋は革製で、脚半をつけたまま履く藁沓にはインナーが入っている。馬は「馬沓(うまぐつ)」とか「馬草履(うまそうり)」と呼ばれた草鞋(わらじ)を蹄につけている。



第三回 中西立太 原画展

観覧 無料

～歴史復元画巨匠の描いた戦国時代～

会期 2023年11月11日(土)～26日(日)

開場時間 9:00～17:00

会場 寒川町民センター 展示スペース

主催 寒川町民センター
共催 一般社団法人 寒川町観光協会

